

ドイツ語（初級 A） 第 4 回 冠詞と名詞

範囲：教科書 S. 12-13（CD トラック 11-13）

《今回の基本例文》

7. Was ist das? – Das ist ein Anzug. Er ist dunkel. (CD11-4)

これは何ですか？– これは背広です。黒の柄です。

[不定冠詞、1 格、指示代名詞 *das*、物事を受ける人称代名詞、形容詞の述語的用法]

8. Wem gehört die Uhr? – Die Uhr gehört einer Studentin. (CD12-1)

その時計は誰のですか？– その時計はある（女子）学生のなんですよ。

[定冠詞、3 格、3 格目的語をとる自動詞]

9. Was kauft der Arzt. – Er kauft einen Sportwagen. (CD13-3)

その（男性）医師は何を買うのですか？– スポーツカーを一台買います。

[4 格]

教科書第 2 課 A. 冠詞と名詞

〈格の概念について〉（補足）

◇ 英語の人称代名詞には、*I*（私が）、*my*（私の）、*me*（私に、私を）のように、それぞれ日本語の格助詞（が、の、に、を）に対応するかたちが存在する。ドイツ語の場合、代名詞のみならず、すべての名詞（やそれを修飾する形容詞）にこのような変化形があり、これを格と呼ぶ。格には、1 格（主格）、2 格（属格）、3 格（与格）、4 格（対格）の 4 種類があり、取り敢えずは、

名称	日本語の格助詞	おおよその用法
1 格	～は／～が	主語
2 格	～の	所有
3 格	～に	間接目的語（英語の第 4 文型（SVOO 構文）における）
4 格	～を	（直接）目的語

と考えてよいが、前置詞（⇒教科書第 5 課）や動詞によって目的語の格が決まる場合もあり、上記の定式に当てはまらないことも多い。

\* 例えば、*helfen*（英語の *help*）は、日本語の感覚では「～を助ける、～を手伝う」であり、4 格を目的語にとりそうに思えるが、実際には 3 格を目的語とする。こういった語法は辞書を参照しないと判断できない。

◇ ドイツ語の場合、4 格目的語をとる動詞のみ他動詞と呼び、上記 *helfen* などそれ以外はすべて（3 格目的語をとるものであっても）自動詞と呼ぶ。他動詞の略称は *vt.*、自動詞の略称は *vi.*となる（ラテン語から）。

### 〈性の概念について〉 (補足)

- ◇ ドイツ語の名詞は、**男性、女性、中性**の3つの性に分けられる。
- ◇ 人間を表す名詞のなかには生物学上の性と文法上の性が一致するものもある (父親 Vater は男性名詞、母親 Mutter は女性名詞、など)。
- ◇ 人間を表す名詞のうち、職業名には男性形と女性形があり、必ず使い分けなければならない。Sänger/Sängerin (男性歌手/女性歌手)、Student/Studentin (男子学生/女子学生)、Arzt/Ärztin (男性医師/女性医師) など。辞書にはほぼ男性形が載っており、そこに語尾-in を加えて女性形をつくる (配付資料 2「名詞の性別の見分け方」も参照)。
- ◇ 一方、ほとんどの名詞の性別は、単に慣習的に決まっているにすぎない。
- ◇ では、ある名詞がどの性に属するか、どうやって判断するのか? これについては、例えば語尾などから、ある程度は規則的に判別できる (これも配付資料 2「名詞の性別の見分け方」を参照)。ただし、基礎的な名詞を中心に覚えるしかないものも多い。その都度にわたって辞書で確認することが肝要である。
- ◇ 辞書や教科書には、男性名詞は *m.* (Maskulinum の略)、女性名詞は *f.* (Femininum)、中性名詞は *n.* (Neutrum) と記載されていることもある。この授業でも踏襲する。
  - \* 本によっては、**男**、**女**、**中**のように日本語で書かれている場合もある。

### 〈数 (単数形と複数形) について〉 (補足)

- ◇ 英語と同じく、ドイツ語の名詞にも**単数形**と**複数形**が存在する。単数形に *s* をつければ複数形がつけられる英語と異なり、ドイツ語での複数形の作り方は数パターンがある。ただし、これについて今回は詳しくは扱わず、教科書第 3 課であらためて学習する。
- ◇ 複数形になると、男性名詞、女性名詞、中性名詞のいずれもすべて同じ冠詞を用い、同じ格変化をする。
- ◇ 以上から、ここで覚えなくてはならないのは、性と数の 4 パターン (男性、女性、中性、複数) × 4 つの格 (1 格、2 格、3 格、4 格) × 2 つの冠詞 (定冠詞と不定冠詞) = 32 種類の変化形である。これを、教科書 S. 12 の 2 つの表によって習得しよう。

### 教科書 1 定冠詞と名詞の格変化 (S. 12)

- ◇ ドイツ語の場合、一部を除いて名詞自体が格変化することはなく、ほぼ名詞につく冠詞だけが変化する。冠詞は、英語と同じく、**定冠詞** (*the* に相当) と**不定冠詞** (*a* や *an* に相当) の 2 種類がある。ただし、無冠詞の場合でも潜在的にはすべての名詞はいずれかの格に属しており、例えば第 1 課で扱った Ich lerne Deutsch. の Deutsch は 4 格である。
  - \* 先の話をするれば、ドイツ語では名詞にくっつくものはなんでも格変化する。
- ◇ 定冠詞の格変化は、
  - der, des, dem, den (男性)
  - die, der, der, die (女性)

- das, des, dem, das（中性）
- die, der, den die（複数）

と唱えて覚えるのが恒例となっている。これが最も基本的な変化形となり、のちのちまで響いてくるので、是非ともここで覚えよう。

◇ 前述の通り、「一部を除いて」名詞自体が格変化することはないが、男性 2 格、中性 2 格、複数 3 格だけは名詞自体にも語尾がつくので注意。

◇ 定冠詞の格変化表のまとめ。

	男性単数	女性単数	中性単数	複数
1 格	der -	die -	das -	die -
2 格	des -[e]s	der -	des -[e]s	der -
3 格	dem -	der -	dem -	den -n
4 格	den -	die -	das -	die

## 教科書 2 不定冠詞と名詞の格変化

◇ 不定冠詞の格変化は、定冠詞の格変化のヴァリエーションといってよい。定冠詞の格変化表から語頭の d を除いて語尾だけ抜き出すと、

	男性単数	女性単数	中性単数
1 格	-er	-ie	-as
2 格	-es	-er	-es
3 格	-em	-er	-em
4 格	-en	-ie	-as

不定冠詞では、この-の部分に ein を加えるのが基本。ただし、男性 1 格、中性 1 格、中性 4 格が無語尾の ein となること、女性 1 格と女性 4 格が\*einie ではなく eine であることに注意。

- ◇ 名詞の方は、やはり男性 2 格、中性 2 格、複数 3 格だけは名詞自体にも語尾がつく。
- ◇ ドイツ語では複数形の不定冠詞はないので、教科書などの変化表には便宜的に無冠詞の複数形が加わっている。
- ◇ 不定冠詞の変化表のまとめ（無語尾のところに○を付した）。

	男性単数	女性単数	中性単数	複数
1 格	ein○ -	eine -	ein○ -	-
2 格	eines -[e]s	einer -	eines -[e]s	-
3 格	einem -	einer -	einem -	-n
4 格	einen -	eine -	ein○ -	-

### 〈1 格から 4 格までの基本的な用法〉（補足）

- ◇ 1 格～4 格の基本的な用法は、以下の通り。

- ・ 1 格: 主語、述語内容語 (=英語の SVC 構文の C)
  - (例) Ich bin Student. 私は学生である。  
(1 格) (1 格)
  - Das ist ein Tisch. それは机である。  
(1 格) (1 格)
  - \* 一般に職業や身分などを表す名詞が述語内容語となる場合、無冠詞となる。  
(⇒教科書 S. 11)
  - \*\* 英語同様、述語内容語をとることができる自動詞は限定されている。現時点では *sein*、*werden*、*heißen* が登場している。
- ・ 2 格: 所有 (一般には後置修飾)
  - (例) Das ist ein Buch des Vaters. それは父の本である。  
(1 格) (1 格) (2 格)
- ・ 3 格: 間接目的語、3 格目的語を取る動詞の目的語 (前述の *helfen* など)
  - (例) Ich gebe einem Freund das Buch. 私はある友人にその本を与える。  
(1 格) (3 格) (4 格)
  - Wir helfen dem Professor. 私たちはその教授の手伝いをしている。  
(1 格) (3 格)
- ・ 4 格: 他動詞の目的語
  - (例) Ich lese das Buch. 私はその本を読んでいる。  
(1 格) (4 格)

### 教科書 Übung 3 (S. 13、CD トラック 12)

1~5. 疑問詞の *wer* は格変化する (教科書右図の変化表を参照)。 *wer* (1 格)、*wem* (3 格) のほか、

(例) Wessen Uhr ist das? それは誰の時計ですか?  
(2 格) (1 格)

Wen liebt er? 彼が愛しているのは誰ですか?  
(4 格) (1 格)

など、格関係に応じて変化させる (*wessen* は名詞に前置する)。

1~5. *gehören* は自動詞 (*vi.*) で、3 格目的語をとって「~に属する、~のものである」という意味になる。英語の *belong to* に相当。

#### 連絡先など

教員のメールアドレス: [tokan@nifty.com](mailto:tokan@nifty.com) 教員のウェブサイト: <http://hasegawa.la.coocan.jp/>

授業のウェブサイト (進捗表示、配付資料あり): <http://hasegawa.la.coocan.jp/lecture/>